

「骨太の方針 2026」閣議決定を受けて ～世界直行型創薬とバイオエコシステム強化による日本の成長戦略実現に期待～

今回の「骨太の方針 2026」において、創薬・先端医療が我が国の成長戦略を支える重要分野として位置付けられ、官民投資の拡大を通じて健康医療安全保障の実現を目指す方向性が示されたことは、日本発の革新的な医薬品・医療技術を世界の患者様に届ける上で、大変意義深いものと受け止めております。

スタートアップ支援、開発後期資金、人材流動化、M&A、国際展開、AI 利活用などの施策が具体化され、官民投資の拡大を通じて日本の創薬力強化につながることを期待しています。

わが国が有する優れた基礎研究力を社会実装へ結び付けるためには、シーズ創出から製品化までを一気通貫で支える創薬エコシステムの強化が不可欠です。しかし、その仕組みは未だ十分ではありません。今回の閣議決定はゴールではなく、出発点と考えています。

本方針実現のためには、予算、制度、規制改革、市場環境整備への着実な具体化が重要であり、日本バイオテック協議会は特に以下の3点を求めます。

1. 既存の創薬ベンチャーエコシステム強化事業について、上場後のバイオベンチャーが臨床試験、製造体制整備、国際展開等の成長段階で民間資金を調達する際に、公的資金を一定割合で上乗せするマッチング型支援制度を整備し、民間投資を呼び込むレバレッジ型の成長投資として制度化していただくこと。
2. 上場・未上場を問わず、商業化が見えてきたレイトステージの創薬アセットを対象に、国内外の臨床開発、製造・CMC、薬事対応等に活用できるAMED等による直接支援（補助金）を拡充していただくこと。
3. 海外臨床開発、国際共同治験、製造スケールアップ、ライセンス交渉・導出等を見据え、専門人材、規制対応、事業開発を一体的に支援する仕組みを整備するとともに、アカデミア発シーズ、探索段階のプラットフォーマー、レイトステージ企業まで、国際標準を目指す取組に対して切れ目のない支援を拡充し、日本発シーズの国際展開を強力に後押ししていただくこと。

バイオベンチャーは、新たな治療選択肢を患者様に届けるだけでなく、日本経済の次の成長を担う存在と自負しています。日本発の革新的な医薬品や医療技術が世界へ羽ばたき、その成功が次の挑戦を呼び込むイノベーションの好循環を、日本に根付かせることが必要です。

日本バイオテック協議会は、関係者との連携をさらに深め、日本が世界をリードする創薬・バイオ産業の実現に向けて、全力で取り組んでまいります。

以上